



# プジョーモトシクル プレスリリース

Vol.27 / 2023年2月15日 発行

## プジョーモトシクル125周年と 「ニュージェネレーションライン」3モデル発売

小型スクーターブランドから総合モーターサイクルブランドへ



1898年にフランスで生まれた、現存する世界最古のモーターサイクルブランド「プジョーモトシクル」が、今年125周年を迎えます。この記念すべき年に、「モーターサイクルメーカー」というブランドの原点に回帰するとともに、新しい時代を築く旗手となる「ニュージェネレーションライン」が発売となります。

近年、プジョーモトシクルのラインナップは小型スクーターを中心としていましたが、今回発売するモデルは、MT式モーターサイクルと大型スクーターです。プジョーモトシクルはカテゴリーの拡充により、総合モーターサイクルブランドとしてさらなる成長を目指します。



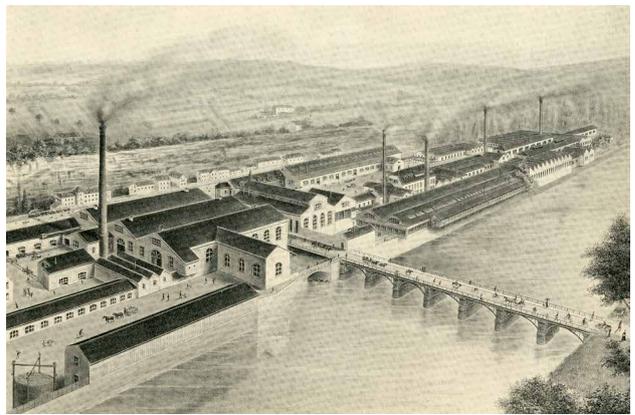
ニュージェネレーションラインは、連綿と受け継がれてきたブランドのDNAを具現化したモデルです。共通する特徴が、プジョーブランドのアイデンティティである「ライオンズクロー（ライオンのかぎ爪）」の意匠。「ライオンズクロー」は近年のプジョー製品における重要なデザインエレメントであり、四輪では全てのモデルに採用されています。四輪と二輪のデザイン共通化が進んだことで、プジョーブランドの独自性と存在感はさらに高まるでしょう。

## 【プジョーモトシクル125年の軌跡】

1898年、ディオン・ブートン・エンジンを搭載したプジョー初のモーターサイクルを第1回パリ・モーターショーで発表。その後、さまざまな市販モデルを開発しながらも、マン島TT、ボルドール耐久、ツール・ド・フランスなどモータースポーツでも活躍し、世界中にその名を広めました。125年の歴史を誇る、現存する世界最古のモーターサイクルブランド、プジョーのプロダクトは、古き良き伝統と現代フランス文化の融合による個性で、唯一無二の存在感を発します。

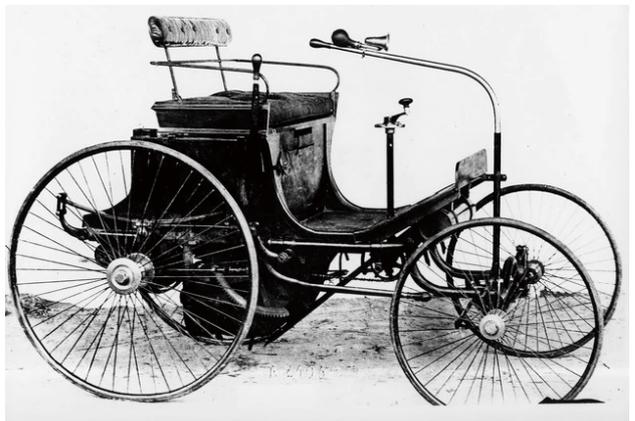
### 1810年 プジョーのはじまり

1810年、フランス東部のエリモンクールを拠点に、ジャン=ピエール・プジョー、ジャン=フレデリック・プジョー兄弟による家族経営の製鉄業として、プジョーはスタートしました。最高品質を示す「ライオン」マークをつけた工具類や、傘、クリノリン、コーヒーマル、自転車など、鉄を材料としたさまざまな製品を世に送り出しました。



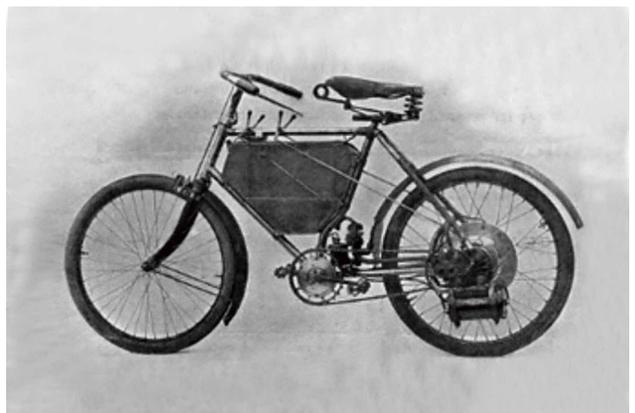
### 1890年 世界初の量産四輪車

1889年パリ万国博覧会で、「プジョー」の名を冠した最初の自動車として、蒸気を動力とする三輪自動車を披露。翌1890年には、ダイムラー製ガソリンエンジンを搭載した四輪自動車「Type 2」を製造。プジョーは、世界に先駆け四輪自動車の量産を開始したのです。



### 1898年 最初のモーターサイクル

プジョーモトシクルは、現存する世界最古のモーターサイクルブランドです。1898年 第1回パリ・モーターショーで、ド・ディオン・ブートン・エンジンを搭載したプジョー最初のモーターサイクルを発表。後輪部分にエンジンをマウントする、斬新な車体構造でした。



## 1907年 スピードへの情熱

プジョーは、モータースポーツにも果敢に挑戦します。現在でも公道レースの最高峰と言われるマン島ツーリストロフィの第1回大会（1907年）において、プジョー製Vツインエンジンを搭載したノートンが勝利。1934年には、ボルドールでの耐久レースにおいて「P515」が、2,000kmおよび3,000kmの平均最高速度、24時間走行の平均最高速度、という3つの世界記録を樹立しました。



## 1953年 移動の自由を誰にでも

第二次大戦後には女性の社会進出が進み、手ごろな交通手段としてのスクーターが世界的なブームとなりました。1953年に登場した「S55」は、フロントのトランクとキャリアや快適なダブルシートが特徴で、ヨーロッパ市場で大いに人気を博しました。



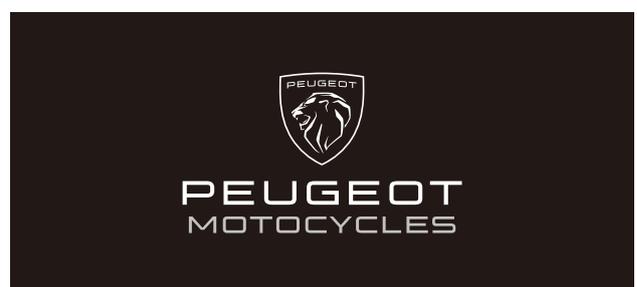
## 2014年 伝説のSシリーズの復刻

50年代に人気を博した、プジョー初のスクーター「S55」にインスパイアを受けた新しいスクーター「ジャンゴ」を発売。レトロだけどモダンな独自のスタイルで、アーバンモビリティの可能性を広げました。



## 2023年 ブランド誕生125周年

ブランドが誕生して125年が経った現在でも、プジョーモトシクルがこだわり続けてきたものづくりへの情熱が変わることはありません。プジョーモトシクルを愛してくださる全ての方に、感情を揺り動かす体験をお届けします。



## 【ニュージェネレーションライン】

### ■PEUGEOT TWEET 125/200 GT

#### 軽量・コンパクトな、ハイホイールスクーター

2018年に限定販売をしていたブジョー ツイートが、モデルチェンジして新発売となります。前後16インチの大径ホイールにより、ヨーロッパの石畳のような凹凸の多い路面でも安定した走行が可能です。軽量・コンパクトな車体で、日常の足や通勤に最適なモデルです。

今回のモデルチェンジでは外観を一新し、ブジョーのDNAをより濃く表したエレガントでモダンなデザインとしています。ボディカラーは4輪でも人気の、グラファイトグレー。LCDメーター、LED灯火類、USBポートなど、最新モデルにふさわしい装備も充実しています。手軽で経済的な125と、高速道路も走行できる200の二種類をラインナップ。



#### 【カラー】

グラファイトグレー

#### 【メーカー希望小売価格(税込)】

ブジョー ツイート 125 GT ¥390,500

ブジョー ツイート 200 GT ¥423,500

#### 【発売日】

2023年2月15日

#### 【販売チャンネル】

全国のブジョーモトシクル正規販売店

PEUGEOT MOTOCYCLES公式サイト

詳細な車両情報は、モデルインフォメーションをご覧ください。

### ■PM-01 125/300

#### 125年続くブランドの名を冠した、アーバンネイキッド

125周年である今年、ブランドの原点を表すモデルとして、新生ブジョーモトシクル初のMT式モーターサイクルを発売します。ネーミングの中のPMは、ブジョー最初のモーターサイクルに由来し、まぎれもない「PEUGEOT」の「MOTOCYCLE」であることを表しています。

ボディはダイナミズムとエレガントさを兼ね備えた、ブジョーならではのデザイン。力強い印象のラジエーターシュラウドやショートテールによる凝縮感のあるスタイリングが、圧倒的な個性を主張します。ラインナップは、都市部でのデイリーユースに最適な125と、街乗りでも高速道路でも、力強いパフォーマンスを発揮する300の二種類。125はエントリーモデルでありながらも、300と多くのパーツを共有し、クラスを超えた品質感を持っています。



#### 【カラー】

シャープホワイト、ジェットブルー

#### 【メーカー希望小売価格(税込)】

PM-01 125 ¥594,000

PM-01 300 ¥737,000

#### 【発売日】

2023年2月15日

#### 【販売チャンネル】

全国のブジョーモトシクル正規販売店

PEUGEOT MOTOCYCLES公式サイト

詳細な車両情報は、モデルインフォメーションをご覧ください。

## ■XP400 GT

### あらゆる道を制覇する、オフロードGTスクーター

4輪の分野で近年大きくシェアを伸ばしているSUVにインスパイアされた、全く新しいスタイルのオフロードGTスクーターが、XP400 GTです。高性能ロードバイクとオフロードバイクのコンポーネンツを組み合わせた足回りが、このモデルのコンセプトを表しています。

26.5kW(36.7hp)を発生するパワフルな399cc単気筒エンジンの、コネク機能付きフルカラー TFTメーター、スマートキー、トラクションコントロールシステム、デイトムランニングライト付LEDヘッドライトなど、フラッグシップモデルにふさわしい、クラス最高峰の装備を有しています。

※本車両は、PEUGEOT MOTOCYCLES公式サイトを通じたインターネット販売となります。



#### 【カラー】

シャークグレー  
スノーホワイト

#### 【メーカー希望小売価格(税込)】

¥1,155,000

#### 【販売チャンネル】

PEUGEOT MOTOCYCLES公式サイト

詳細な車両情報は、モデルインフォメーションをご覧ください。



アクセサリ装着車

#### ■会社概要

会社名：aidea株式会社

所在地：〒107-0052

東京都港区赤坂2-5-4

赤坂室町ビル5F

代表者：池田元英

設立：2019年9月20日

資本金：225,000,000円

URL：https://aidea.net/

事業内容：

aidea製品の製造・販売

PEUGEOT MOTOCYCLES製品の日本総代理店

SHIRO製品の日本総代理店

#### ■お問い合わせ先

aidea株式会社

TEL：03-6427-3600

FAX：03-6427-3607

e-mail：info@aidea.net

画像ファイルのダウンロード：[https://peugeot-motocycles.jp/news/2023\\_2\\_15-1/](https://peugeot-motocycles.jp/news/2023_2_15-1/)